

株式会社ミュージックバード

第80回番組審議会 議事録

1. 開催日時 2020年3月27日(金) 15時00分～16時30分

2. 開催場所 TOKYO FM 10階 役員応接室

3. 出席者

<番組審議会委員>

矢内 廣 委員長

福本 ゆみ 委員

中西 健夫 委員

近藤 良 委員

堀 主知ロバート 委員

麻倉 怜士 委員

<ミュージックバード>

代表取締役社長

取締役技師長

取締役

コンテンツ事業部

コンテンツ事業部

コンテンツ事業部

コンテンツ事業部

雄谷 英一

土屋 充央

吉田 乾朗

岩崎 育郎

関根 直子

篠崎 めぐみ

椎名 楓

4. 議事内容

(1) 放送活動のご報告

(2) 番組試聴

(3) 今後の施策について

5. 配布資料

(1) 第80回番組審議会資料

(2) 第79回番組審議会議事録

(3) Song List ハイライト記事(2020年1月～3月)

(1) 主な放送活動の報告

・121ch THE CLASSIC【CLASSIC LIVE SELECTION】

◆「ザルツブルグ音楽祭2019」 出演:奥田佳道

・122ch THE JAZZ「TOKYO FM Studio IRIS ライブ」

→一定の評価を得ている。

●MB インターネットを使ったサブスクリプションの影響で個人事業の状況は、かなり苦戦している状況になっている。

いきなり下がるということではないが徐々に縮まっているのが現状。引き続き、食い止められるようなコンテンツをお送りしていきたいと考えている。

以前、「せっかいいいことやっているのにどうやって伝えているのか」などのご指摘いただき、メールマガジンなどを用いて宣伝方法を強化しているが、ITリテラシーの低い高齢者ユーザーも多く、苦慮している。

また、前回ご指摘いただいた「チャンネル並びの分かりにくさ」については、パートナーであるキャンシステムのBGM事業とのチャンネルプラン共有との兼ね合いがあり、難しい状態である。

TFM番組の発掘プロジェクトについては徐々に集まっており、実現できればキラーコンテンツになると考えている。

(2) 番組試聴

◆番組名:『オーディオって音楽だ!』

放送チャンネル:MUSIC BIRD 124ch「THE AUDIO」

放送日:2019年10月17日(木)9:00~10:00《再放送=(木)20:00~21:00》

出演:鈴木 裕(オーディオライター)

ゲスト:寺島靖国、野間美紀子

内容:音楽とオーディオは切っても切れない関係。より深く、より楽しく音楽を楽しもうとすれば良いオーディオが必要。車の両輪ともいえるハード(オーディオ)、ソフト(音楽)の両面を語るオーディオファンのためのプログラム。出演は鈴木裕。今回は、ジャズ&オーディオ評論家・寺島靖国、逆「季刊 Analog」担当編集者の野間美紀子。

●MB 当社の放送は、専門的な音楽、地上波ではなかなか放送されない音楽など、マニアックなものを取り上げると共に、「音」にこだわってやっている番組がある。寺島靖国さんと鈴木裕さんは「音楽」そのものと「音」の両方に対して深く関心がある方である。寺島さんの番組に人気があるのは、ジャズとオーディオの両方について語れること。そういった方が当社契約者には人気のようである。

●委員 このような番組はほかに絶対ない。音の聴き方や楽しみ方を話すことは、なかなか聴けないと思う。雑誌メディアでは寺島さんの勢いがわからない。そこがおもしろかった。

●委員 面白いと思う。私はMBが可能性を秘めた会社だと思っている。放送の使い方を、これまでの常識にとらわれないでほしいと思う。「音楽」の学び方っていうのをたくさん考えてほしい。「良い音」の概念や「音」に対する考え方が人や国によって違う。そういうことが伝えられたら面白いと思う。「サウンド」と「ミュージック」の違いも伝えられたら、さらによいと思う。

●MB 元々MBIは「音楽を高音質で」というサービスだが、音楽をいい音で聴かせるという話と、知的好奇心をくすぐるような情報を伝える、という番組のふたつに分かれがちであった。どちらかというオーディオのチャンネルは「情報を伝える」ほうなので、もう少しそのあたりを整理する必要があると考えている。例えば、トーク部分はインターネットを使って好きなところを「何回でも聞いてください」とするも考えるたほうが良いのではと考えている。

●委員 「竹針と金属の針」にも違いはあるが、演奏家が奏でる音はさらに違いがある。音色だけでなく、音楽に対する考え方が違くとさらに変わってくる。だからそういうところも着目してみるといいかもしれない。

●委員 MBIには「音楽を聴かせる」というチャンネルと、トークを面白いと思う人達を惹きつけるような番組を持つということはとても大事なことでないかと思う。

●委員 「竹針と金属針の違い」は一般の音楽ファンにも興味はあると思う。こんなに違うのかと改めて思ったり、マニアックになり得る人は潜在的には多い気がするので、そういう人たちを巻き込めれば、音の聴き比べなど基本的には面白さが伝わる。

●委員 非常に難しい内容だった。こういう突っ込んだ話をしているときに、説明だけでなく、目の前で両方聴かせてあげて、わかりやすくする。知的探求心を広げていくといいと思います。

●MB オーディオが好きな人が聴いている前提で作っているから、その部分は端折っているかもしれない。もともと仲の良い二人が話しているのだから、二人だけの世界になってしまっている部分はあるかもしれない。だから、言葉に対する脚注が必要かもしれない。

●委員 新しいお客様のことを考えたりするときに、SNSなどが起点になっていると思うのだが、そういうところで盛り上がるような話の宝庫だと思う。知らなかったことから、インターネット上で盛り上がりもわからないものもある。クオリティは違うけれど、その内容をわかるように形にしてそれを違うチャンネルでもサンプルを作るなどのプチ体験をさせてあげるような内容を作るといいと思った。

●委員 音楽のおもしろさに気付かせることができるといいと思う。オーディオだけでなく、演奏のほうでもできるといいと思う。

●委員 「音がほとばしる」などの表現があるが、「ほとばしるってどんな音だろう」と聴いてみたいと思った。スタジオだけでなくもっとライブな感じで聴いてみると、また「ほとばしる音」が違ってくると思う。細かいことだが、カーオーディオで聴いていて、三人喋りがすべてセンターから出てきている。せっかくステレオだから、この先生が右で、この先生が左でなどチャンネル分けがあるとよりオーディオらしいと思う。それから、もう一つ音楽的な解説があるとおもしろいと思う。

また、ネットのサブスクリプションを利用するのも手かと思う。ハードルは専用チューナーとアンテナが必要なことだが、インターネットから入る導線を作るといいのかもしれない。

あと、「THE LIVE」みたいなものが欲しい。メディアを通じて何かを観るっていうのは習慣になりつつある。そうすると「LIVEを観たい」や「聴きたい」等の意見がでてくると思う。「LIVE音源専門のチャンネル」があると面白いと思う。

●委員 演奏者がプライベートで録ったものを音質の良いMBで流す。演奏者のファンに知ってもらえることができる。自主配信している人が多いから、その道筋を作るといい。

●委員 自主配信などは音が悪いが、MBにするともっとよくなるという導線にもなる。自主配信していると機材など環境が良くない状態で配信するが、もっと出来上がったものの品質を向上させたい。その手段のひとつとしてMBを使ってもらえる。

◇その他の施策

●MB 既存契約者に対し、チューナーの買い替えを推奨するキャンペーンを行っており、好評である。今後、さらに音質の向上を図った最高級機種「C-T5000CS」を発売する予定である。買替を希望する既存契約者も多いと思われ、完売を見込んでいる。本日、委員からいただいたアイデアをもとに今後の施策を検討します。

以上